

リリースノート v3.0

このネットワークテスターは、NetAllyの第3世代共通ソフトウェアプラットフォーム上に構築されています。今回のリリースに含まれる新機能と機能強化については、以下をご覧ください。

第3世代製品には、AirCheck G3、EtherScope nXG、LinkRunner AT 1500/3000/4000、LinkRunner 10G、CyberScope、およびCyberScope Airが含まれます。一部のアプリケーションおよびアップデートは、指定された製品にのみ適用されます。

本リリースの内容

Ally Intelligence

要求、登録、およびソフトウェアアップデートの簡素化

Nmapとディスカバリモニタリング機能の対象モデル追加

PoE自動モード

EZ WiredとEZ Wi-Fiの機能強化

自動テストの機能強化

Wi-Fi分析機能の強化

LinkRunner AT 3000でのディスカバリ機能追加

Link-Liveアプリの機能強化

アプリのサポート範囲の拡大

設定の機能強化

バグ修正と改善

テスターソフトウェアのアップグレード

Ally Intelligence

テストが失敗した場合のガイド付きソリューション

テストが失敗した場合、Ally Intelligenceは一般的なネットワークの問題を特定し、ハンドヘルド端末上で修正手順を案内します。これにより、多くの問題をエスカレーションすることなく現場で解決できます。Ally Intelligenceは、認識した各問題について、考えられる原因を説明し、裏付けとなる証拠を提示し、解決方法のガイダンスを提供します。このガイド付き解決手順は、現場で実行できる明確なステップバイステップのワークフローです。

Ally Intelligenceは大規模言語モデル（LLM）を使用せず、NetAllyが30年にわたって培ってきたネットワークエンジニアリングの専門知識に基づいた組み込みの診断ロジックを適用して、具体的な原因と解決策につながる詳細を特定します。

バージョン3.0では、Ally IntelligenceはEZ Wiredアプリで、有線ネットワークにおける3つの一般的な問題点に対応しています。

- **Rogue DHCP** – 複数のデバイスがDHCPアドレスを提供していることを検知し、ベンダー、ホスト名、リース時間、SNMP応答、認証状態などの指標を比較して、疑わしい不正DHCPを特定します。

☰

EZ Wired

START

⚙️

🟢

🔗

🔌

⚡

🔗

VLAN

🖨️

DHCP

DNS

☁️

❗

Rogue DHCP Detected

Multiple devices offered DHCP addresses.

Based on *Ally Intelligence*, the suspected rogue is **Roku** ([192.168.1.240](#)).

🔧

How to Fix It

Disconnect **Roku** ([192.168.1.240](#)). Rerun this EZ test to confirm the fix.

WARNING: Turning off a valid DHCP server will likely cause network issues.

RERUN EZ TEST

See advanced details

▼

☰

EZ Wired

START

⚙️

🟢

Hide advanced details

^

Suspected Rogue

IPV4
[192.168.1.240](#)

VENDOR
Roku

SWITCH PORT
—

MAC
b0a737fa1eb2

HOSTNAME
192.168.1.59

DEVICE TYPE
Router

AUTHORIZATION
Unspecified

Suspected Valid

IPV4
[192.168.1.1](#)

VENDOR
Netgear

SWITCH PORT
—

MAC
c89e43-cdf454

HOSTNAME
192.168.1.1

DEVICE TYPE
AP

AUTHORIZATION
Unspecified

Ally Intelligence Indicators

Vendor — Suggests Roku ([192.168.1.240](#))

The accepted server's vendor Roku matches consumer-router brands; the other server look managed infrastructure.

- **PoE** – Power over Ethernetが検出されない場合に警告を発し、ケーブル、スイッチポート、およびポートのPoE設定を確認して電源を復旧するための手順を案内します。



EZ Wired

START





No PoE Detected

AutoTest didn't detect any power on the cable. The cable, switch port, or port's PoE configuration can each cause this problem.



How to Fix It

1. Run Cable Test on the cable. Opens or shorts on the power pairs mean the cable can't carry PoE. To fix, replace any damaged cables.



RUN CABLE TEST 

2. Confirm the far end is plugged into a PoE-enabled switch port, not a wall jack or unmanaged hub.

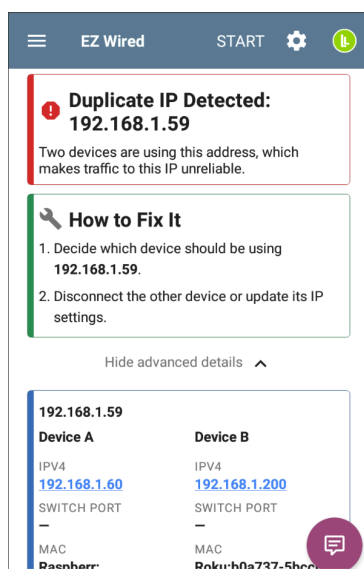
3. Check the switch port's PoE configuration, and make sure the port isn't administratively disabled.

RETURN EZ TEST

See advanced details



- 重複IPアドレス – 複数のデバイスが同じIPアドレスを使用していることを検出し、競合している各デバイスのスイッチとポートの詳細を表示するため、重複しているデバイスを特定して切断したり、IP設定を更新したりできます。



Ally Intelligenceのご利用には、有効なAllyCare Proサポート契約が必要です。現在、LinkRunner AT 3000 および4000、LinkRunner 10G、EtherScope nXG、CyberScopeなど、EZ Wiredアプリを搭載したテスターでご利用いただけます。

詳細については、netally.com/allycare-supportをご覧ください。

要求、登録、およびソフトウェアアップデートの簡素化

Link-Liveでは、ユニットの取得と製品登録が単一のプロセスになりました。ポップアップに表示されるQRコードを別のデバイスでスキャンするか、[Link-Live.com/Units/ Claim](https://link-live.com/units/claim)にアクセスして、NetAllyテスターを取得および登録してください。Link-Liveは、登録が完了するとすぐに機器に通知するため、従来必要だったテスターの取得と使用準備のための手動によるやり取りが不要になります。

まだ登録されていないテスターでは、以前の登録プロンプトに代わって新しい一連のポップアップダイアログが表示され、登録プロセスを案内します。これらのダイアログには以下の情報が含まれています。

- Link-Liveにユニットを登録する手続きを開始する「**今すぐ登録**」ボタン。
- 当該機器のMACアドレスの下6桁を含む、機器のクレーム申請用URLにリンクするQRコード。
- 前回の登録ダイアログを開く「**手動処理**」ボタン。

テスターの登録期限は3日間です。登録期間の残り日数はダイアログに表示され、期限が過ぎると通知されます。Link-Live経由でユニットを取得するのが最も迅速な登録方法であり、すべての機能をご利用いただけます。

ユニットを受け取った時点でアップデートが利用可能な場合、Link-Liveは自動的にテスターにアップデートを送信します。Link-Liveを利用したくない場合は、[support.netally.com/ registration](https://support.netally.com/registration) で手動登録手続きを行うことができます。



Nmapとディスカバリモニタリング機能の対象モデル追加

Nmapとディスカバリモニタリングのプラットフォーム拡大

ポートスキャンおよび常時ディスカバリモニタリング機能が、CyberScope限定ではなくなりました。これにより、EtherScope nXG、LinkRunner AT 4000、LinkRunner 10G、およびAirCheck G3の各テスターでも、Nmapおよびディスカバリモニタリング機能がご利用いただけるようになります。なお、これらのテスターで本機能をご利用いただくには、有効なAllyCare Proサポートサブスクリプションが必要です。

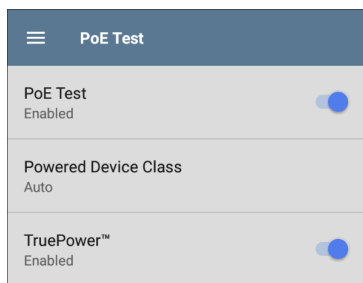
更新された組み込みNmapバージョン

組み込みのNmapのバージョンがv7.99にアップデートされました。詳細はnmap.org/changelog.htmlをご覧ください。

PoE自動モード

PoEテスト用の新しい自動モード

PoEテストに**自動モード**が追加されました。このモードでは、PoE構成を自動的に検出し、テストをそれに合わせて調整します。これにより、テスト前にPoE設定を手動で構成する必要がなくなります。自動モードは、デフォルトのクラス設定となっています。



自動モードでは、テスターはクラス8のネゴシエーションを試行し、ネゴシエートされたクラスとPoE測定結果を報告します。

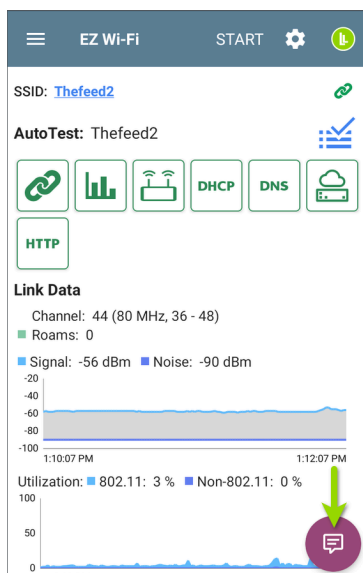
PoEの結果は、受信電力の有無やクラスに基づいて評価されなくなりました。PoEが検出されない場合、PoEの結果はニュートラル（黒）ステータスを示し、結果コードセクションには値の代わりにダッシュが表示されます。PoEが検出されると、結果が評価され、TruePowerが有効になっている場合、TruePower測定値が設定されたしきい値を下回った場合にのみ、失敗となります。

PoEテストは、有線テストポートを備えたテスター（LinkRunner、EtherScope nXG、Cyber Scopeなど）で利用可能です。

EZ WiredとEZ Wi-Fiの機能強化

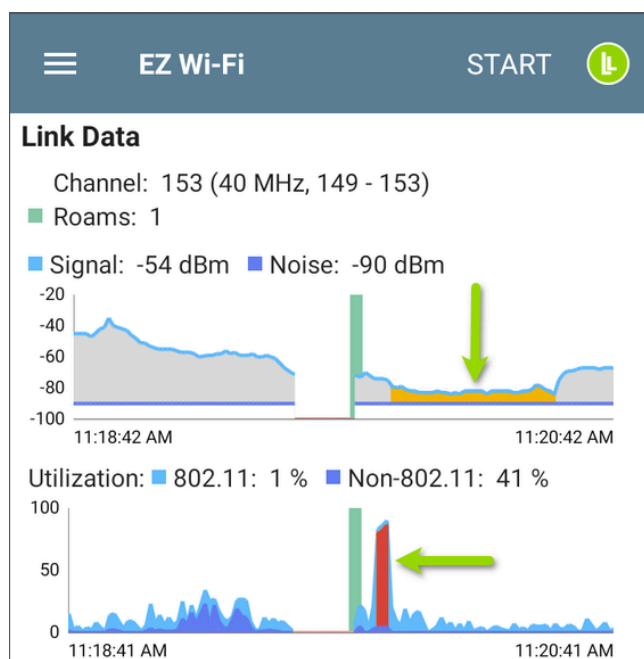
EZ WiredとEZ Wi-Fiからテストコメントを追加する

EZ WiredアプリとEZ Wi-Fiアプリの両方に、新しいフローティングアクションボタン（FAB）が追加されました。これにより、EZアプリを離れることなく、アップロードした自動テストの結果にコメントを追加できます。



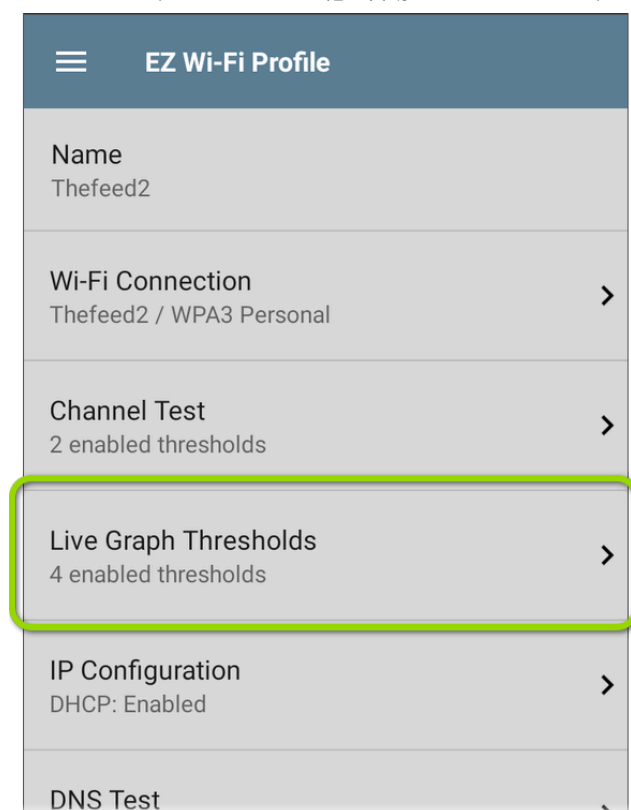
Wi-Fiのリアルタイムグラフしきい値

EZ Wi-Fiと自動テストは、リアルタイムデータにライブ測定しきい値を適用するようになりました。測定値が更新されると、設定されたしきい値に基づいて値が色分け表示されるため、テスト実行中に想定範囲外の測定値をすばやく特定できます。



これらのトレンドグラフを表示するには、EZ Wi-Fiのメイン画面を下にスクロールするか、自動テスト Wi-Fiプロファイルのリンク詳細画面に移動してください。

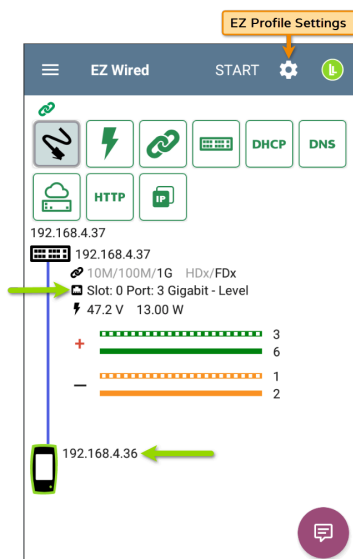
EZ Wi-Fiプロファイルまたはその他の自動テスト Wi-Fiプロファイルの設定で、ライブグラフのしきい値を設定してください。



信号強度またはSNR、802.11利用率、非802.11利用率、およびTXレートのしきい値を設定してグラフに表示できます。

プロフィール設定へのアクセス

自動テストに移動することなく、EZプロファイルの設定を更新できるようになりました。EZ WiredまたはEZ Wi-Fiアプリのタイトルバーにある歯車アイコンをタップして、EZテストプロファイルの設定を確認および変更してください。



EZ WiredにおけるクライアントIPおよびポートインジケータ

EZ Wiredでは、クライアントのIPアドレスとポート名の近くに新しいアイコンが表示されるようになり、接続の詳細を一目で確認しやすくなりました（上の画像を参照）。

ケーブル接続時の自動EZ有線テスト

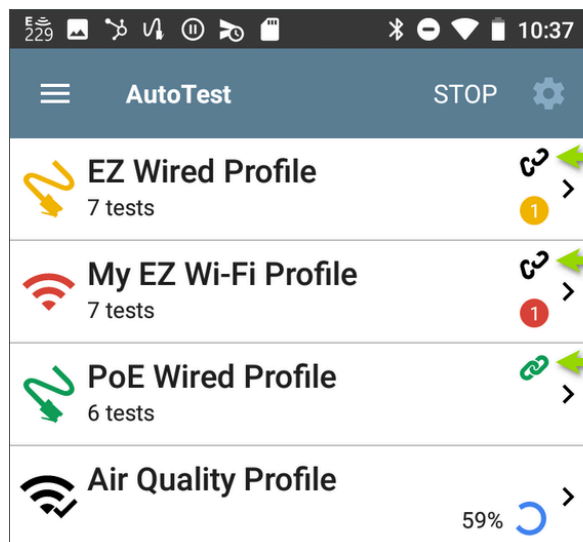
ケーブルを有線テストポートに接続すると、自動テスト、ケーブルテスト、またはLANBERTアプリをアクティブに使用していない限り、自動テストは自動的にEZ Wiredプロファイルを実行します。これにより、追加の手順なしで有線接続の結果を即座に得ることができます。

EZ Wiredは有線テストポートを備えたテスターで利用可能で、EZ Wi-FiはWi-Fi対応テスターに表示されます。

自動テストの機能強化

アクティブリンク表示機能の強化

自動テストは、アクティブなリンクをより明確に表示するようになり、テスターが接続され、リンクが確立されているかどうかを一目で簡単に確認できるようになりました。



- 緑色のリンクアイコンは、ネットワーク接続がアクティブであることを示します。
- 黒色のリンク切れアイコンは、テスターが現在、このテストプロファイルで設定された接続に接続されていないことを示します。
- リンク結果がない場合、リンクアイコンは表示されません。

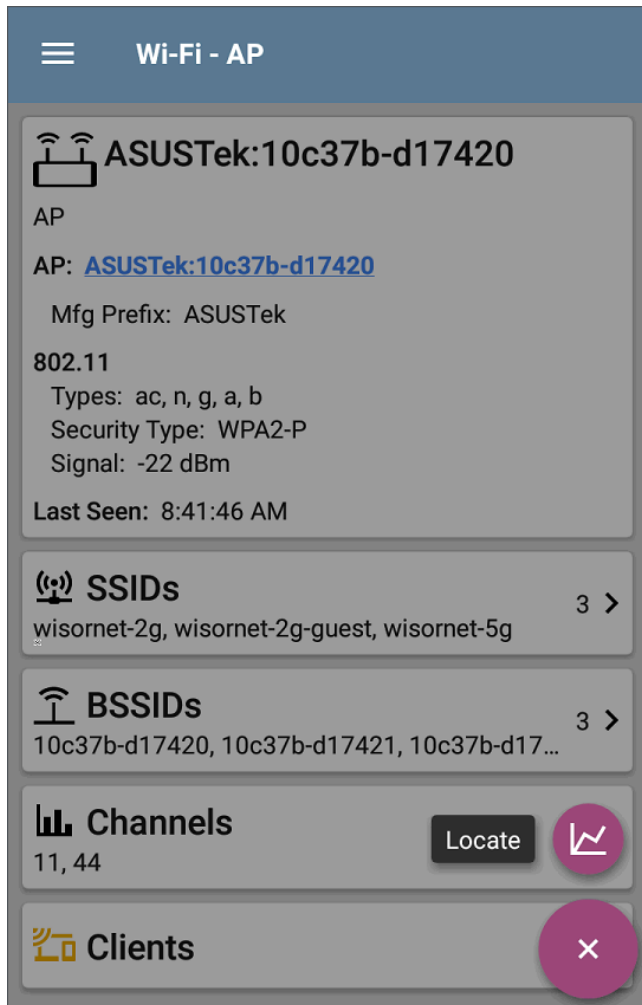
Wi-Fi 自動テスト最上位レベルに表示されるチャンネル範囲

チャンネル範囲がWi-Fi 自動テストの結果の最上位に表示されるようになり、以前発生していた切り捨てを防ぎ、チャンネル範囲全体をより簡単に読み取れるようになりました。

Wi-Fi分析機能の強化

AP詳細画面から探す

Wi-Fiアクセスポイントの詳細画面に「**Locate**」というフローティングアクションボタン（FAB）が追加されました。これにより、リストビューに戻ることなく、詳細画面から直接アクセスポイントの位置特定を開始できます。



レートと性能に関する高速スクロールバー

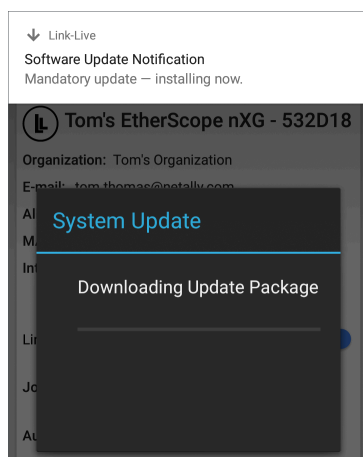
BSSID詳細画面の「レートと性能」ページに、高速スクロールウィジェットが追加されました。これにより、レートと性能の全リストを素早く閲覧できます。

Link-Liveアプリの機能強化

Link-Liveにアップロードされた追加結果

Link-Liveにさらに多くのテストデータがアップロードされました。

- Pingアプリの検索結果がLink-Liveにアップロードされるようになりました。
- 追加のSFP情報は、自動テスト中にLink-Liveにアップロードされます。
- LANBERTの検査結果データは、全製品においてLink-Liveにアップロードされるようになりました。
- ユーザーがアップデートが利用可能なユニットを登録すると、Link-Liveは登録後すぐにそのアップデートを自動的にユニットにプッシュします。



LinkRunner AT 3000でのディスカバリ機能追加

LinkRunner AT 3000でディスカバリアプリが利用可能になりました

ディスカバリ機能は、ネットワーク上のデバイスを識別し、それぞれのデバイスに関する詳細情報を提供することで、何が接続されているか、どのように構成されているかを把握するのに役立ちます。

※LinkRunner AT 3000でディスカバリ機能をご利用いただくには、有効なAllyCare Proサポートサブスクリプションが必要です。

アプリのサポート範囲の拡大

XAPKアプリパッケージのサポート

テスターは、XAPKファイル（複数のファイルで構成されるAndroidインストール）としてパッケージ化されたアプリをインストールできるようになり、端末に追加できるアプリの種類が拡大しました。

設定の機能強化

設定ダイアログでカスタム値が最初に表示される

設定のコンボボックスダイアログでは、カスタム値がリストの一番上の最初のオプションとして表示されるようになり、カスタム設定をより迅速に入力できるようになりました。

バグ修正と改善

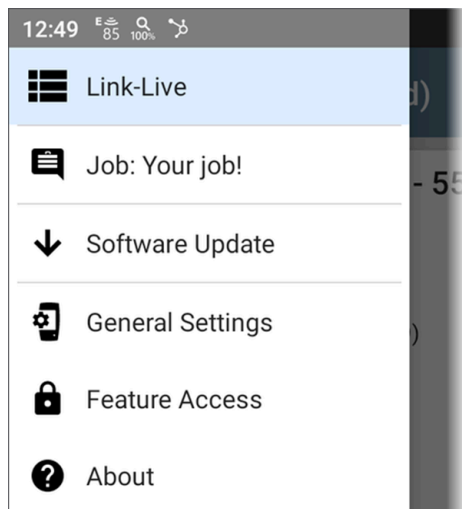
- AW-15162: システムWebViewライセンス（システム>テスターについて>法的情報）が開かない問題を修正しました。
- AW-15153: 同じAOSPビルドを再インストールした際にAndroid 11が再起動する問題を修正しました。
- AW-15121: EZ Wiredプロファイルが無効になっている場合に、EZ Wiredアプリが起動時に終了してしまう問題を修正しました。
- AW-15113: Androidユーザーの作成が反映されない問題を修正しました。
- AW-15081: 通常よりも短いDHCPパケットを受信した際に、有線接続テストがクラッシュする問題を修正しました。
- AW-15030: NetAllyの通知がまとめて非表示になる問題を修正しました。
- AW-15026: システム言語を変更した後に、通知に複数の言語が混在して表示される問題を修正しました。
- AW-15021: ソフトウェアアップデート中に、バージョン不一致の通知が本来表示されるべき時に表示されない問題を修正しました。
- AW-14981: VNC入力によって自動電源オフタイマーがリセットされない問題を修正しました。
- AW-14975: LRAT-1500 - [バージョン情報]画面で、エクスポート設定ファイル名が誤ってLRAT-3000と表示されていた問題を修正しました。
- AW-14974: EZ Wired - PoE電力値の単位サフィックスを修正しました。
- AW-14957: 検出デバイスの詳細でLRAT-1500がLinkRunner 3000/4000として識別される問題を修正しました。
- AW-14955: LRAT-1500 - LANBERT が誤って含まれていた自動アップロード選択ダイアログを修正しました。
- AW-14951: LRAT - Android Wi-Fi管理中に「設定が繰り返し停止します」エラーが発生する問題を修正しました。
- AW-14940: AirMapper - デフォルトの調査モードをクイック（自動サンプリング）に修正しました。
- AW-14935: 有効期限切れのAllyCareが、次の再起動まで有効として報告される問題を修正しました。
- AW-14927: iPerfが実行できない場合に、無効なデータがLink-Liveに送信される問題を修正しました。
- AW-14825: AirCheck G3 - バージョン2.4と2.8の間で発生したWi-Fiローミング性能の低下を修正しました。
- AW-14766: Link-Liveで結果が複数回アップロードされた際に、結果が重複して表示される問題を修正しました。
- AW-14639: C9300スイッチにおいて、AutoTestがリンクに失敗する、または公称最高速度を下回る速度でリンクしてしまう問題を修正しました。
- AW-14599: Wi-Fi管理コマンドのタイムアウトによってポップアップが表示され、再起動が発生する問題を修正しました。
- AW-14101: CyberScope - Nmapシグネチャのテスト中にDiscoveryが無限ループに陥る問題を修正しました。

テスターソフトウェアのアップグレード

このソフトウェアアップデートは、AllyCare™プレミアムサポートサービス契約の重要な特典です。AllyCareの特典の詳細については、[AllyCare サポート・お客様セルフサービス \(netally.com\)](https://netally.com) をご覧ください。

Link-Live.comに端末を登録済みの場合、OTA（Over the Air）アップデートの手順に従うことを強くお勧めします。

1. いつでも利用可能なソフトウェアアップデートを確認するには、 ホーム画面からLink-Liveアプリを開いてください。
2. Link-Liveアプリでは、メニューアイコンをタップするか、右にスワイプして左側のナビゲーションドロワーを開きます。



3. 「ソフトウェアアップデート」をタップします。ソフトウェアアップデート画面が開き、利用可能なアップデートのバージョン番号が表示されます。
4. システムをアップデートするには、「ダウンロード+インストール」をタップしてください。完了すると、テスターは再起動します。

NetAlly製品をご利用いただき、誠にありがとうございます。